

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

<13>

まず、身の回りを安全に！(2)

読者の皆様、新年明けましておめでとうございませう。お元気で輝かしい新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。早いもので、このシリーズを始めて1年がたちました。今年もがんばってまいりますので、よろしくお願ひいたします。

【家具等の転倒・散乱防止】

ベッドや布団に横になった時、ちよつと回りを見回してみてください。タンス、エアコン、テレビ、窓ガラス…。もし、今夜眠っている時に地震が起きたら?! それらがすべて凶器となつて、あなたや家族の上に倒れこんでくるかも知れませう。

阪神大震災など過去の大地震を見ると、家具による圧死・窒息死や負傷の多さに驚

きます。また、転倒した家具などが出口をふさぎ、逃げ出せない状態で延焼火災に遭つた例も多く見られました。

家具等の転倒・散乱防止は、自分でできる(やるべき)防災対策です。

【家具の固定】

固定していない場合、家具は震度5弱で移動し、震度5強で倒れます。

固定するといつても、震度7でも完全に倒れないようにすることはほとんど不可能です。固定の考え方は、揺れの最初の瞬間には倒れることのないようにして時間を稼ぎ、その短い時間に安全な場所に逃げることです。固定の仕方としては、耐震金具などを使って家具と建物が一体で動くように、柱・鴨

居壁などに固定します。壁に固定できない場合は、家具と天井の間を硬いものでふさいで止めます。このとき、なるべく広い面で止めるのが効果的です。また、タンスなど2段に分かれているタイプの家具は、必ず上下を金具などで固定します。

冷蔵庫・テレビ・レンジ・ピアノなども専用の固定器具でしっかり固定します。新たに購入する際には、業者に固定してもらおうと安心です。

【家具の配置・使い方にも工夫】

自宅の中でも、最も安全にしておきたいのは寝室やお年寄り・子供部屋でしょう。なるべく家具を少なくするとともに、最優先に固定します。また、緊急時に非常用出口にもなる玄関や窓など出入口付近には、できるだけ物を置かないようにします。自転車やベビーカーなどは特に避難の妨げになります。

次に、家具の置き方・使い方としては、薄くて背の高い家具は、じゅうたんや畳より固い床の上に、また後ろもたれ気味に置くようにします。収納は重い物を下に、軽い物を上にします。扉や引出しには鍵をかけ、地震による振動で収納物が落下しないようにします。

もう一つ大切なことは、家具の上に危険物や重い物は決して置かないことです。阪神・淡路大震災のデータによると、家具の上に置かれた危険物の約70%が落下し、被害を大きくしたのです。

【次号のテーマ】

次号では、「その他の身の回りの安全対策」についてお話しします。



高齢者宅を訪れ、家具の転倒防止策を施す地域住民＝静岡市葵区で